

# 全自者協ニュース

JAAS (Japanese Association of Autism Support)

- ・全自者協ニュース／第50号／2017年（平成29年）10月
- ・発行所＝全日本自閉症支援者協会・事務局 ☎072-662-8133
- ・発行人＝松上利男・編集人＝五十嵐猛・URL <http://zenjisyakyo.com>

## 佐々木正美先生のご逝去を悼んで

社会福祉法人横浜やまびこの里 障害福祉事業部長 小林 信 篤

2017年6月28日、当法人の理事、その後は顧問として支えて下さった佐々木正美先生がご逝去されました。

その一報は、突然に私の前職の同僚からもたらされました。お加減が芳しくないことは伺っていましたが、お見舞いにお尋ねすることもできないままにこの報に接し心痛むばかりです。

私と先生の出会いは、30年以上前になります。当時横浜市内にある幼稚園に勤めていた私は、クラスに自閉症児を受け入れていたこともあり、また知識も十分でなかったのが、当時、佐々木先生が所長をされていた小児療育相談センターで行われていた勉強会に参加し、ピアジェやエリクソンから自閉症のイロハまで、多くのことを学ばせていただきました。

その後、福祉に進んだ私は、横浜市自閉症児・者親の会の施設設立のお手伝いをするようになり、そこで再び佐々木先生とお会いすることとなりました。佐々木先生から渡された1冊の本を基に現在の横浜やまびこの里の支援の理念や内容を組み立てていったことが懐かしく思い出されます。

先生は、『自閉症の人たちは、自分の周囲の事象を理解できず、そのことによって不安を感じ、混乱して、さまざまな行動上の課題を呈することが多い。そうであるなら、支援者は彼らが環境をどのように理解するのかを把握して、彼らがより理解、より適応ができるように、刺激や情報を整理し、過剰なものは排除することによって、単純で理解しやすい場面や日常生活の流れをつくって提供することが必要です。』とよく仰っておられました。これは今で言うところの合理的配慮が必要であることを示唆されていたと思います。

多くの先生の教えの中で、最も私の印象に残っていることは、「福祉の仕事は、自閉症の人たちが安定した日常生活を主役をとって演じられるよう過不足のないシナリオを作りあげて提供することです。」ということです。

先生は、日常生活の流れを「自閉症の人が主役を演じることのできる生活シナリオ」だと言われます。一人一人の自閉症の人の能力や個性、育ちに合わせて、シナリオの内容を徐々に豊富で複雑なものに書き換えていけばよい。最初は一定の限られた場面で限定的な人たちとの間で定型的な行動や台詞を演じることができるよう支援し、次第にアドリブの多い一般の人たちの世界に導いていくという考え方が重要である。支援者がこのような視点をしっかりもっていないと、自閉症の人たちは、不安、困惑、混乱、恐怖といった状態に陥りやすくなり、防衛的な態度をとり、内容の貧困な、全くアドリブの効くような余裕のない、硬直した儀式的な日常生活のシナリオを自ら作成して、その中に自閉的に身を沈めることで最低限度の安らぎを得ようとするし、それもできないと、激しい自傷行為と不眠を伴ったひどい混乱状態に陥ってしまう。したがって、支援者が当面自閉症の人に出来ることは、一人一人の自閉症の人たちに、彼らが主役を演じるような生活シナリオを作って提供し、それが演じられるように教え、支援していくことである。」と教えていただきました。これからも自閉症の人たちが納得し、満足する生活が存在することを信じ、その実現に向けて努力していくことを約束したいと思います。

私は現在の職に戻る前の6年間ほど、先生と川崎医療福祉大学で一緒に仕事をさせていただきました。身近なところで、先生のお手伝いをしながら多くのことを学ぶことができたことは本当に贅沢な時間だったと感謝しています。

先生が亡くなられて一月後にご自宅へ弔問に伺いました。そこには、たくさんの花々に囲まれて、いつもの穏やかな笑顔の先生のお写真が飾られていました。先生ご自身のシナリオは、まさにハッピーエンドであったことでしょう。

ご冥福をお祈りし、併せて心からの感謝の意をささげます。ありがとうございました。

## 「発達障害者支援法の改正をふまえての今後の課題と展望」

公明党 高木美智代衆議院議員

総会に先立ち、公明党の高木美智代衆議院議員に発達障害者支援法改正にかかる内容についてご講演いただきました。超党派による発達障害の支援を考える議員連盟の事務局長として、共生社会に向けた前向きなご意見もくださり、ご理解のある方が国政におられる安心感とともに、発達障害者の社会参加に向けて更なる工夫と連携が必要であることを再認識いたしました。

以下、ご講演の内容を簡単ではありますが、紹介させていただきます。

### 改正にあたって

○発達障害の支援を考える議員連盟には190名の議員が所属している。

○この法律は多岐の省庁に渡る議論や検討が必要とされていることから、ワーキングチームを組織して細かい詰めを行ってきた。

○施行後十年間の課題と今後の方向性をはっきりさせるため、共生と社会参加に向けて関係諸機関が切れ目のない支援をすすめることを理念に掲げている。

### 全自者協からの要望に向けて

①発達障害者支援センターの増強

②支援専門員の養成と派遣の国事業化

③自閉症総合援助センターの法制化

①から③における回答。

・専門的な人材確保に向けた調査研究から、座学のみでなく、現場で学ぶ機会をつくるのが発達障害者支援センター職員や強度行動障害者を支援する職員に有効であることを確認した。

・人材の確保に向けて国立リハビリテーションセンターも支援専門員養成研修への参加をすすめるとともに、発達障害情報センターの機能強化をすすめる。

・発達障害者支援センターの機能強化に向けて、都道府県や政令指定

都市に発達障害者支援センターを複数設置することなどを促す言葉

を法律に盛り込んだ。

④知的障害者福祉法との統合

⑤障がい者手帳の見直し

⑥子ども子育て支援との連携

④から⑥における回答。

・法律と制度が分かれていることへの課題に向けて、今後も国際的動向を勘案しながら検討する。

・支援の谷間に置かれやすい軽度知的障害を伴う発達障害者の実態調査を行うとともに、ICD-11の動向もふまえながら支援の体制を検討している。

・療育手帳制度の運用は自治体によって知的障害のない発達障害者が対象になりにくいことから、精神保健福祉手帳を通じた支援をすすめることを各団体にご理解いただいているところである。

・子育て支援との連携に向けて、ペアレントプログラム等の周知や巡回指導専門員の活用をすすめることにより、家族を含めた支援を充実させていく。

・早期から切れ目のない支援を行うために、保育所と児童発達支援センター等との連携についても強化

させていく。

### 文科省との連携について

○発達障害者支援法改正に係わる文部科学省での対応状況

・通級指導の充実に向けて指導担当教員の基礎定数化を実施した。

・インクルーシブ教育システム推進事業及び切れ目のない支援体制の整備に向けて、「障害があるかもしれない」段階から個別支援計画の作成と情報の共有化に努める。  
・教員の資質向上事業、いじめや不登校対策事業を推進する。

### 結びに

発達障害を知る国民が8割以上(87%)いるという調査結果が報告されたが、これからは個々の障害特性にまで理解や支援が進むことを目指していきたい。



参考図書：改正発達障害者支援法の解説  
発行/ぎょうせい 2700円

# 平成29年度 全日本自閉症支援者協会総会 議事録

平成29年7月3日(月)、エッサム神田ホールにおいて、全日本自閉症支援者協会総会の年次総会が開催された。

## ○会長挨拶

総会に先立ち、松上利男会長より挨拶があった。

先週金曜日に佐々木正美先生がお亡くなりになった。石井哲夫先生が亡くなられて、佐々木先生も亡くなられた。皆さん、いろんな思いで計報に接しられたと思う。私たちはこれから先人の意思を引き継いで、自閉症の人達の幸せのために実践を積み上げていきたいと思っている。全日本自閉症支援者協会が一般社団化して法人格を取って、これからスタートしていくわけだが、もっと地域に根ざしながら、全国に向けて様々な実践、支援を発信していくという大きな責務があると思っている。これからの総会では忌憚のないご意見をいただきたい。

## ○議事の進行

定款第16条の規定により松上利男会長が議長に選出された後、事務局から委任状25施設出席45施設で過半数を満たしているので総会が成立していることが報告された。10件の議案が検討され、いずれも出席者の全員一致で承認を受けた。

(1)平成28年度事業報告が事務局よりなされた。

実施した事業は、①第30回研究大会函館大会の開催②第31回研究大会新潟大会の計画③会報(全自者協ニュース)の年2回発行と関連団体等への送付④会員(施設・個人)名簿の作成⑤発達障害支援スーパードバイザー養成研修の実施⑥厚生労働省等の行政機関、日本自閉症協会や日本知的障害者福祉協会をはじめとした関連団体との情報交換、連携、要望活動などとなっている。

(2)平成28年度決算報告が事務局よりなされた。その後けやきの郷の水野努監事より、適切に会計処理がなされていたとの報告があった。

本件について満場一致で承認された。

(3)昨年の第30回研究大会函館大会の報告がねおはろうの夏目智志施設長よりなされた。250名を超える参加者があり、成功裏に終わったと報告があった。収支報告で収支差額が569,769円の赤字であったことについて、松上会長より黒字の用途について、理事会でブロック活動を強化したいという意見があったことからブロック活動に税金を使っていた旨の提案がなされ満場一致で承認された。

(4)定款および会費規程の変更について事務局より説明があった。

定款について、①構成員は正会員(団体)、准会員(個人)、賛助会員、名誉会員の4種とすること②総会は正会員で構成されること等の説明があり、会費規程について①新たに会費規程を定めたこと②会費基準の事業所種別に応じた会費額としていること等の説明があった後、本総会をもって一般社団法人に移行することおよび会費規程に

ついて満場一致で承認された。

(7)平成28年度事業計画案について事務局より提案がなされ、満場一致で承認された。

(8)平成28年度予算案について事務局より提案がなされ、満場一致で承認された。

(9)第31回研究大会新潟大会について主管施設太陽の村菊地康晴施設長より説明がなされた。平成29年11月1日、2日の両日に新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で「地域社会との共生を考える」をテーマに開催予定となっていると報告があった。今回は会員と非会員で参加費に差をつけることとなった。

(10)平成30年度の第32回研究大会については東海ブロックが担当しており、主管施設のれんげの里の前納欣人施設長より説明がなされた。

## (11)その他

①日本自閉症協会からの退会について、松上利男会長より報告がなされた。

いろんな種別の事業所が加入して、今後広がりをもった協会組織にすべきである。個人も加入できる。自閉症の人達を支援する職能団体として名称を改めた。日本自閉症協会とは今後

連携をとっていく。

②世界自閉症啓発デー2017について嬉泉の石井啓副会長より報告がなされた。

全体の内容はホームページを参照のこと。全自者協として担当したのは会場委員会、全国対策委員会であった。閉会式で流れた当事者のビデオメッセージとホームページの応援メッセージをとりまとめた。

③厚生労働省平成28年度障害者総合福祉推進事業「発達障害者支援における専門性確保のための実地研修に関する調査研究」について、同じく石井啓副会長より報告がなされた。詳細は嬉泉のホームページを参照のこと。調査研究を踏まえた提言では、直接支援をするために知るべき共通の言葉をもつこと、生活そのものを知ることをベースにおき、その上に早期支援、就労支援、生活支援等の2段階で実地研修をやっていくのが望ましい等が示された。

④高齢期対策検討委員会について、同じく石井啓副会長より報告がなされた。アンケート調査のときは加盟施設にご協力いただいた。自閉症協会に加盟している

会員の親の年代にばらつきがある。今の会員で子供が高齢期を迎えている方が少ない。全自者協加盟施設に入所している人が多かった。結果については、自閉症協会ホームページに掲載されているので参照のこと。調査結果から住まいの問題と支援の継続について大きな不安があることが明らかになってきた。高木美智代議員と野田聖子議員にも調査結果を提出している。

⑤発達障害支援スーパーバイザー養成研修について、五十嵐康郎副会長より報告がなされた。平成29年度の申込者は96名であったが、調整して86名の受講者を決定した。実務研修は希望調整ができていた。集合研修はいつもは金土日を実施していたが日本財団からの要望で、7月末の火水木にして、3月も春休みは入ってから実施する予定である。26年度受講者は96名で修了者61名、27年度は受講者85名で修了者53名、28年度受講者は87名で修了者は現在34名である。修了者総数は148名となっている。修了者にはSVの会や全自者協準会員の加入を案内している。

⑥アルバマール視察研修について、木村昭一常任理事より報告がなされた。平成22年に行動障がいの人たちの支援についての研修に行ったが、それを起点としてアルバマールで学んだことがアメリテイフォーラムで発達障害の分科会ができたきっかけとなった。今回はとりわけ運営管理、マネージメント、人材育成、地域との関わりについて学ぶことをテーマとしている。ぜひ管理職の方に参加していただきたい。

その他、グループホームの夜間支援の労務管理と労働基準法との関係について問題提起された。

(全自者協事務局)

▶トピックス▶

一般社団法人日本自閉症協会高齢期対策検討委員会が実施された、自閉症の高齢者の実態に関する「高齢期の自閉症スペクトラム障害者に関するアンケート調査結果報告書」が、日本自閉症協会のホームページに掲載されています。<http://www.autism.or.jp/>

平成28年5月に「成年後見制度の利用の促進に関する法律」が施行され、国の施策として推進されている成年後見制度ですが、利用者の権利擁護や意思決定支援の観点からその有効性が問われている側面もあり、その促進については私たち支援者共通の課題だと思っています。  
今回、入所施設の保護者が立ち上げて先駆的に法人後見に取り組まれてきた一般社団法人親泉会の小野様より、実際の取り組みや見えてきた課題などについてご寄稿いただきました。

「本人の立場に立つ成年後見とは」親泉会の試み

一般社団法人 親泉会  
事務局長 小野 多規子

これまでの親泉会

「込められた親の思い」

社会福祉法人嬉泉袖ヶ浦ひかりの学園とグループホーム春のひかりの親たちが、親亡き後の我が子を思い、後見を担う法人を平成18年に設立したのが親泉会です。

措置から契約に制度が変わった時に大半の親たちが後見人に就任していましたが、親亡き後はどうなるのだろうかという心配もあり、「一人っ子で託す人がいない」「親は子の最期を見届けられない」「子が高齢になっても今の施設で暮らせるのか」「施設

の暮らしがどうなるのか」などという我が子の将来を不安に思う親の想いからのスタートでした。現在、後見32件、保佐4件の36件を受任しています。(うち親と共同で行う複数後見28件複数保佐2件)

設立から10年となる今も、会員である親たちは、我が子が生涯に亘り幸せに豊かに暮らせるように、お互いの個々の利害を超えた仕組みを作るため、話し合いを重ね、様々なことを企画しています。その中から、学園の余暇活動の一つとしてミニコンサートを行ったり、高齢化する本人の健康や医療のことを考えようという動きが起きています。学園を信頼し、協力を惜しまない親たちの共有する想いがあります。また、親たちは「親の想い」というファイル(データ編・エピソード編)を作り、我が子の生涯支援を託すことになっています。

### 親泉会の取り組み

#### ～本人の立場に立って～

事務局長として、法人の設立の準備段階から関わり後見事務を担当することになった時に後見制度がどうかというより、本人にとって何をすることが本当に必要か、本人の立場に立つ後見とはどういうことかと考えました。その実現や仕組み作り

が求められていることだと思いましたが。職員時代から長年見てきた純粋な気持ちを持ちながら生き難さを抱えている本人たちのために私にできることをやりたいという想いも強く持ちました。

後見を受任するにあたっては一人の親との面談を行います。そこで聞く幼少期のエピソードや帰宅した時の様子などは学園の生活では見せない本人の姿や思いをうかがわせるものでした。また、親は施設での生活は知っているようで知らないことが多くあることもわかりました。目指す本人の立場に立つ後見のために共通の理解を持つことや情報交換をすることが大事ではないかと考え、親、学園、親泉会での三者面談を始め、最近では本人、きょうだい、関係者なども加わる拡大面談へと広がっています。面談の内容も当初は幼少期の聞き取りが中心でしたが、最近では、家や学園の様子ビデオを見て話し合ったり、支援についての話に至ったりと様々です。他に月に1～2回、学園やグループホームで本人に面話し話を聞いたり、学園の個別支援計画について意見を言ったり、親たちが学園の支援について知る勉強会を開催したりといろいろな活動を行っています。

親と学園という違う立場で共通理

解をすることの難しさもありますが、どういう人なのか、何が好きなのか、わかることは何かなどということを変更して確認してみるとか、親の老いをどう感じているのか、親の死をどう受けとめるのかなど心の奥底にあるある本人の想いを知り、共感し、より深く理解することが「本人の立場に立って」ということに繋がっていくのではないかと考えています。事実、面談などを通して知り得た情報から、本人の理解が深まり、新たな気付きや表れない気持ちや思いを知るきっかけになったということがありました。

### これからの親泉会

#### ～本人の最善の利益を求めて～

自閉症の障害特性を正しく理解し、本人の意思を尊重し代弁をするということが、大変難しいことだと思えます。親が良かれと思うことが必ずしも本人にとって良いとは限りません。施設での決まった日課で一見穏やかに過ごしていることに本人は果たして満足しているのでしょうか。本人の望みと、親や支援者の良かれと思うことが異なることもあるのではないのでしょうか。こういうことを常に視野に入れ、本人の話を聞いた、意思を確認する手掛かりを見つけたりしながら、どんな思いや望み

を持つているか、それを叶えるためにはどんな支援が必要か、そのために財産をどう使うのかということを考えていくことが本人を中心に置いた後見のあり方ではないでしょうか。

親泉会の10年間の取り組みを通して、後見制度の中で「本人のために」という判断と、親や支援者が「本人のために」という意味は大きく違うことも知りました。本人を守るためには必要な制度でもあると思います。法律や制度だけで守られていけば幸せで豊かな生活とは言えませんが、成年後見制度が利用促進基本計画により見直され、身上保護に重きを置いた制度になることを期待していますが、現行の制度ではともすれば財産管理が中心で後見人がいれば安心という仕組みにはなっていない。財産を守ることに重きが置かれ、本人のためになることにお金を使うことは難しいのが現状だと思われまます。生涯支援のために、関係者が本人のために何が必要かということを話し合い、特に今後、高齢化という大きな課題を見ていく時、現行の法律や制度を超えた支援や、本人が安心して暮らせるための望ましい生活の場ということを一人一人の状態に合わせて考えていくことを目指して今後も事業を展開していきたいと考えています。

## 発達障害支援スーパーバイザー養成研修

### 運営委員会報告

平成29年7月23日、発達障害支援スーパーバイザー養成研修開催に先駆けて、運営委員会が開かれました。今回の主な議題は、①事務局から発達障害支援スーパーバイザー養成研修生のフォローアップ研修と、②全自者協スーパーバイザーとしての認定に向けた検討会の提案がなされ、多くの賛成意見が寄せられました。(以下、抜粋します)

- ・既に民間の中で短時間の研修のみで簡単に発達障害に関係する認定を取得できるような事業がなされていることに、利用者側から不安や疑問の声があげられている。発達障害支援に関して信頼の置ける資格認定が求められる中で、本研修は研修内容が幅広く、実地を含まれていることから、期待することがができる。
- ・発達障害者への支援には、幅広い知識や経験が求められることから、本研修を補完するためにフォローアップ研修を開催することも必要である。
- ・実際の支援やコンサルテーション

には、専門性以外に、高い人間性も求められるため、知識だけでなく、実践に基づいた評価を行うことも必要。

- ・認定に向けて、スーパーバイザーの定義を明らかにさせて価値を共有することが望ましいのではないか。

これらの意見をもとに、スーパーバイザーの認定とスキルアップに向けたプロジェクトチームを作成して検討を行うことになりました。

プロジェクトメンバー代表…

五十嵐猛(萌葱の郷) 委員…

山根和史(萩の杜)、亀山隆幸(あかりの家)、北川裕(嬉泉)、加藤潔(はるにれの里)



参加団体：文部科学省、発達障害者支援センター全国連絡協議会、日本自閉症スペクトラム学会、日本発達障害ネットワーク(JDD ネット)、日本自閉症協会、全日本自閉症支援者協会

# 発達障害支援スーパーバイザーの会報告

平成26年にスタートした養成研修は、過去3年間で267名が受講されており、その内202名が修了された。発達障害支援スーパーバイザーの会には75名が入会しています。本会では、入会者に向けて養成研修前期と後期の集中講座に合わせ年2回、お互いの活動報告や情報交換、フォローアップ研修を目的にした意見交換会を開催しています。

平成29年7月24日に開かれたスーパーバイザーの会で出された意見を報告いたします。

## ○各委員からの感想

本研修会やSVの会を通して全国のいろいろな職種の方と知り合い、良い刺激を受けることができています。実地研修の受入れ施設にとっても、研修生からの率直な感想や意見が参考になっている。学校現場では、施設の支援について知る機会がないので、とても参考になった。上司の勧めで参加したのだが、自分の支援を振り返ることができ、とても有意義な研修であった。自分の県は、まだ発達障害の支援に関する理解や情報、SVの体制が進んでいないため、本

研修会やSVの会の活動に期待している。大分ではSVの格差が広がり過ぎたため、更新制度を取り入れていく。

## ○議題

### 1、SVの認定に向けて

認定審査には、厚労省や文科省の方にも参加していただきたい。運営委員会の構成メンバーには、文科省や厚労省の専門官以外にも、自閉症協会やJDDネット、日本自閉症スペクトラム学会、発達障害者支援センターからの代表者がいるため、最適だと思う。

### 2、フォローアップ研修について

圏域毎で情報交換できるような研修の機会も期待している。

### 3、合理的配慮を行うためのアクセス

メンツールについて  
全国のSVが共通して活用できるツールを開発しており、HPを通して配布を予定している。

### 4、SVと施設の質の向上について

いろいろな事業所が出来ている中、支援内容の底上げに向けて当研修会を活用することは有効であり、他施設をコンサルテーションできるように

になれば、自分の施設の質も向上しているはずである。質の評価には、ニーズ調査などのデータの収集と分析も必要である。施設の発信力が弱いと、支援内容も評価されにくいのではないだろうか。良い施設とは、利用者ニーズに基づいて事業内容が増えているなど、結果もついてきている。

### 5、SVのアイデンティティーについて

議論の末、SVに求められる役割について、以下の通り、共通認識を行うことができた。  
「いろいろな観点を持ちながら、利用者や家族支援だけでなく、支援者や事業所がより良い支援を行うことができるように誘導していく活躍が望まれている」。

### 6、アンケート調査について

受講生に向けて、SVのニーズに対してや、施設に期待する特色などについてアンケート調査を行い、活動の参考にしていきたい。

### 7、その他

8月2日に国立リハビリテーションセンターにて開催される発達障害者地域支援マネージャー研修にて、五十嵐代表がスーパーバイザー養成研修の成果報告を行うことを予定しており、同内容を11月の全自者協新

潟大会の第5分科会でも行う予定である。  
来年度より、秩父学園も養成研修の実地先として受ける準備をすすめられている。



SV養成研修懇親会でも、先輩からの熱いエールを研修生に送りました

## 第31回 全日本自閉症支援者協会 新潟大会 開催要項

### 1. 大会趣旨

「地域社会との共生を考える」

私たちは、1987年に「自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立、社会参加の実践と研究の推進」を目的として結成され、福祉制度の谷間にある自閉症の人たちの支援を先駆的に実践してきました。障害者の差別禁止と合理的配慮の義務が求められるなか、平成28年7月に起きた非人道的な事件は、記憶にあたらしく、忘れることはできません。

あの悲惨な事件から1年、今こそ本大会では、「共生」をテーマに、支援者として自閉症の方々が豊かに暮らせる社会、障害のある人たちと共に生きる社会の実現のために、私たちは何ができるのか、今何をすべきなのか、をいま一度考えていきたいと思えます。

### 2. 主催

一般社団法人 全日本自閉症支援者協会

開催担当 全日本自閉症支援者協会 北信越ブロック施設

ウォーム・ワークやぶなみ うさか寮 やねのうえのガチョウ 作業センターふじなみ はぎの郷 ジョブスタジオノーム すだちの家 支援センターすだち 白樺の家 あおぞら 親愛の里松川

主管 社会福祉法人新潟太陽福祉会 太陽の村

### 3. 後援(予定)

新潟県 新潟市 一般社団法人日本自閉症協会  
新潟自閉症協会連合会 認定NPO法人にいがた・オーティズム 公益財団法人日本知的障害者福祉協会 新潟県知的障害者福祉協会 学校法人新潟総合学園新潟医療福祉大学 公益財団法人真柄福祉財団

### 4. 期日

平成29年11月1日(水)～2日(木)

### 5. 会場

ANAクラウンプラザホテル新潟

〒950-8531 新潟県新潟市中央区万代5-11-20

TEL025-245-3334

http://www.anacrownplaza-niigata.jp

### 6. 参加対象者

全日本自閉症支援者協会会員施設職員

知的障害者関係施設職員 家族(保護者)

その他関係機関職員

### 7. 参加費

両日参加	会員	7,000円
	非会員	8,000円
1日のみ	会員	4,000円
	非会員	5,000円
情報交換会		8,500円

### 8. 大会事務局

〒950-3112 新潟県新潟市北区太夫浜675番地

社会福祉法人 新潟太陽福祉会 太陽の村

TEL025-258-6337 FAX025-258-6338

E-mail: a-convention@niigata-taiyo.com

担当：菊地(キクチ)・細井(ホソイ)

### 9. 日程

1日目(11月1日)

13:00～13:30 開会式

13:30～14:30 行政説明

14:30～16:00 基調講演1

「自閉症の方々の社会適応と家族支援プログラムについて」

鳥取大学大学院医学系研究科

臨床心理士 専門行動療法士

井上 雅彦氏

16:10～17:40 基調講演2

「自閉症のある人とのコミュニケーションを考える」

香川大学教育学部 特別支援教育

言語聴覚士 坂井 聡氏

18:40 情報交換会

2日目(11月2日)

9:30～11:30 シンポジウム

『地域社会との共生を考える』

【シンポジスト】

勝部 真一郎氏(萩の杜)

齊藤 喜美夫氏(てらん広場第二)

熊本 葉一氏(いわて発達障がい

サポートセンターええ町づくり隊)

【助言者】

松山 茂樹氏 新潟医療福祉大学 教授

【コーディネーター】

全日本自閉症支援者協会 会長 松上 利男

11:30～12:00 閉会式

13:00～16:00 分科会

16:00 終了

## 世界自閉症啓発デー2017 シンポジウム報告

第9回「世界自閉症啓発デー2017・シンポジウム」が、今年の4月8日(土)に、東京の霞が関にある全社協灘尾ホールで開催され、参加者は、400名以上となりました。

今回は、「たいせつなことを あなたに きちんとつたえたい」発達障害のこころをテーマにおいて、3つのシンポジウムを企画致しました。どのシンポジウムも「つたえる」を共通のキーワードとしており、「地域」「マスメディア」「家族」という枠組みの中から、「発達障害の理解」の広がりに向けて、プレゼンテーションや発表などが行われました。

そして、昼食休憩時には、今年の4月1日(土)に開催された「東京タワー ライト・イット・アップ・ブルー」のビデオが上映され、シンポジウムの最後には、各地域でご活躍されている当事者の皆様から、元氣あふれるメッセージも紹介されました。

それでは、シンポジウムの内容を以下にご紹介いたします。

### 『プログラム』

総合同会 国沢 真弓 氏

●開会式 10:00～10:40

国連事務総長メッセージ、主催者挨拶、シンポジウム開会挨拶、来賓祝辞、来賓紹介

●シンポジウム① 10:50～12:10

「地域作りのリーダーの想い」

司会

市川 宏伸 氏

(日本自閉症協会)

福本 康之 氏

(日本自閉症協会)

シンポジスト

稲村 和美 氏

(兵庫県尼崎市長)

北村 正平 氏

(静岡県藤枝市長)

比嘉 ちみ子 氏

(沖縄県中小企業家同好会)

相談役)

昼食休憩)

〈東京タワー ライト・イット・アップ・ブルー〉のビデオ上映)

●シンポジウム② 13:10～14:30

「効果的な伝え方の工夫

(マスメディア)」

司会

今井 忠 氏

(日本自閉症協会)

村上 由美 氏

(言語聴覚士・当事者)

シンポジスト

神戸 金史 氏

(CBC毎日放送東京報道部長)

東 ちづる 氏

(女優・一般社団法人GEM)

Touch代表)

熊田 佳代子 氏

(NKK文化・福祉番組部)

チーフプロデューサー)

●シンポジウム③ 14:40～16:00

「身近な人の理解」

司会

寺山 千代子 氏

(日本自閉症スペクトラム学会)

橋口 亜希子 氏

(日本発達障害ネットワーク)

シンポジスト

益田幸奈さん・理澄さんご姉妹

伊藤議代さん・秀和さんご夫妻

佐藤康裕さん

●閉会式 16:05～16:20

当事者メッセージ

主催者挨拶

アントニオ・グテレス国際連合事務総長からのメッセージも代読されました。

シンポジウムを振り返りまして、前段の①においては、今までのシンポジウムに登壇された首長の方々から、ご紹介をいただいた各自治体等のトップの方に、発表をいただいております。各自自治体の支援体制について、取り組みのお話を頂きました。次に、②のシンポジウムでは、社会と障がい者のつながり、一緒にいる生活を作り続けていくために、「メディア」を通じた取り組みについて、大切なメッセージが伝えられました。そして、③のシンポジウムでは、「身近な人の理解」として、ご姉妹、ご夫婦、親の立場である身近な方々に、ご発表をいただきました。この発表は、発達障害について書かれた受賞作品でした。どの発表も、家族や当事者の思いがたくさん込められた内容で、沢山の方々に伝えることができましたと思います。会場全体が感動に包まれるシンポジウムとなりました。

(社福) けやきの郷 水野努

今回、シンポジウムに先がけ、橋本岳厚生労働副大臣からの主催者挨拶、市川宏伸一般社団法人日本自閉症協会会長からの実行委員長挨拶、来賓の皆様からの挨拶をいただき、

## 自閉症スペクトラムのための総合保障のご案内

\*\* これから加入をお考えの方へ \*\*

病気やケガでの入院、ケガでの通院、個人賠償補償がセットされています！

◆保障内容(概要) ・詳細はお問い合わせ下さい。パンフレット等をお送り致します。

<p><b>【ASJ保険】</b>                  病気やケガ・検査により、入院を開始した2日目から次の保険金をお支払いします。</p> <p>●入院保障金 1会計年度 30日まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付添介護費用 1日 8,000円</li> <li>・差額ベッド費用 1日 5,000円までの実費</li> <li>・入院臨時費用 1入院 5,000円</li> <li>・入院諸費用 1日 1,000円</li> </ul> <p>●死亡弔慰金 5万円</p>	<p><b>【AIU普通傷害保険】</b>                  ケガでの入院、通院を初日から補償します。</p> <p>●本人の傷害(ケガ)の補償</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院(730日まで) 1日 3,000円</li> <li>・手術(1事故あたり1回まで) 3万円～1.5万円</li> <li>・通院(90日まで) 1日 1,500円</li> </ul> <p>●死亡保険金 229万円</p> <p>●後遺障害保険金 229万円～9.16万円</p> <p>●他人への損害賠償(対人・対物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1事故支払限度額 最高5,000万円まで補償</li> </ul>
--	--

※詳細についてはパンフレットをご覧ください。



### 自転車事故で法律上の損害賠償責任を負った場合も対象になります！

●途中加入掛金 (加入希望月前月20日が申込受付の締切です)

会 員 種 別	11月1日加入	12月1日加入
<b>◆加入プラン A (年間掛金15,900円)</b> 日本自閉症協会正会員(加盟団体)の構成個人会員	6,920円	5,630円
<b>◆加入プラン B (年間掛金16,400円)</b> 自助会員(上記以外の方は申し込みにて自助会員となります)	7,420円	6,130円

★ 加入者様のお声 ★

- ★ 障害を持つ者が入院すると意思疎通を図るため付添が絶対必要になります。ASJ保険は付添などの手厚い保障があり本当に役立っております。
- ★ 入院前後に用意する物が多いので、入院諸費用の給付があり助かりました。
- ★ 「抜歯入院手術は給付対象外」という保険会社が何社かありましたが、ASJ保険は給付をいただきました。

お問い合わせ・お申し込み先 ☎フリーダイヤル **0120-880-819**

一般社団法人 日本自閉症協会 ASJ保険事務局

〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 築地ニッコンビル6F

TEL: 03-5565-2020 FAX 03-5565-2021

営業日 月～金(土・日・祭日除く)10:00～16:00

E-Mail : [asj-hoken@autism.or.jp](mailto:asj-hoken@autism.or.jp) ホームページ : <http://www.autism.or.jp>

各種お問い合わせ、保障内容のご確認、ご請求、ご相談等は上記までご連絡下さい。